科目名	日常生活活動学 （作業療法）演習	担当教員	山田 恭平※ 佐藤 拓也※ ※印は実務経験のある教員を示す。

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	前期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR32AD	②、③、④					

科目概要	「日常生活活動学（作業療法）」の講義内容を踏まえて、対象者の日常生活活動（ADL）を評価し、治療等を支援していくための技術や考え方について演習を通して理解する。具体的には、寝返り、起き上がり、立ち上がり、移動や移乗も含めた動作の演習や、食事や更衣動作やトイレ動作等の活動分析方法の演習を通して、日常生活場面におけるアプローチ方法を学習する。また、これらの生活動作を観察して客観的事実として記述し、分析するという過程についても学習する。
学習目標	ADL の基本となる姿勢、基本動作、セルフケアに関する観察、記録などの演習を通して、具体的な分析・評価や治療／援助の考え方・方法について理解し、実践できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験教員担当項目
1	概論	ADL 概論	ADL の評価、治療・援助の概要を確認する。	山田
2	演習 1	動作分析・活動分析の考え方 座位・立位、正常動作の観察と分析	動作分析・活動分析の考え方について確認、理解する。	山田
3	演習 2	寝返り動作の観察と分析	実践を通して寝返り動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
4	演習 3	寝返り動作の観察と分析	実践を通して寝返り動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
5	演習 4	起き上がり動作の観察と分析	実践を通して起き上がり動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
6	演習 5	起き上がり動作の観察と分析	実践を通して起き上がり動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
7	演習 6	立ち上がり動作の観察と分析	実践を通して立ち上がり動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
8	演習 7	立ち上がり動作の観察と分析	実践を通して立ち上がり動作の観察視点、分析方法について確認、理解する。	山田
9	演習 8	活動分析の方法（食事・整容）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田
10	演習 9	活動分析の方法（食事・整容）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田
11	演習 10	活動分析の方法（トイレ・排泄・入浴）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田
12	演習 11	活動分析の方法（トイレ・排泄・入浴）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田
13	演習 12	活動分析の方法（移乗動作）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田 佐藤
14	演習 13	活動分析の方法（移乗動作）	活動分析の流れについて理解し、演習を通して分析方法、実践方法を学ぶ。	山田 佐藤

15	まとめ	動作分析、活動分析	本演習の流れを理解した上で、実技試験での実践方法、および留意点を理解する。	山田

評価方法	実技試験 50%、筆記試験 50%
課題に対するフィードバック	講義、演習を通してフィードバックを行う。 演習中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。
教科図書	なし
参考図書	齋藤宏 他・著『姿勢と動作　第 3 版』メヂカルフレンド社、2010 年 伊藤利之・著『ADL とその周辺　第 3 版』医学書院、、2015 年 日本作業療法士協会・監『作業療法学全書　改訂第 3 版　日常生活活動』協同医書出版社、2009 年 伊藤利之 他・編『新版　日常生活活動（ADL)』医歯薬出版、2010 年 など
学習の準備	1　作業療法評価学・演習、運動学・演習の内容を復習しておくこと 2　特に、四肢、体幹の筋の起始・停止について復習しておくこと 3　事後学習として、講義内容についてを復習すること　（以上、1～3 について 45 分以上）
オフィスアワー	火曜日と木曜日の 16 時 10 分～17 時。その他、在室時はいつでも可。
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験	山田恭平・佐藤拓也は、民間病院で日常生活活動における作業療法の実務経験を有しており、その経験を活かして具体的な動作演習や分析方法についてより実践的な指導をすることができる。